

Subject : **Japanese**Production of Courseware
e- Content for Post Graduate CoursesPaper No. 02 : **日本語学 (Japanese Linguistics)**Module 24 : **待遇表現 (Attitudinal Expressions)**

ज्ञान-विज्ञान विमुक्तये

**Development Team****Principal Investigator:****Prof. Anita Khanna**

Jawaharlal Nehru University, New Delhi

Paper Coordinator:**Prof. Prashant Pardeshi**

The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Content Writer:**Dr. Yasunari Imamura**

The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Content Reviewer:**Prof. Kaoru Horie**


Nagoya University

Japanese

Japanese Linguistics

待遇表現 (Attitudinal Expressions)

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	待遇表現 (Attitudinal Expressions)
Module ID	JPN-P02-M24
Quadrant 1	E-Text

 **Pathshala**
पाठशाला
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

待遇表現 (Attitudinal Expressions)

たいぐうひょうげん
待遇表現

もくてき げんごひょうげん じゅうよう けいご ちゅうしん
目的：このモジュールでは、コミュニケーションや言語表現で重要な敬語を中心に、

にほんご たいぐうひょうげん かいせつ
 日本語の待遇表現について解説する。

たいぐうひょうげん
1. 待遇表現とは

にほんご がくしゅう うえ ただ はつおん ただ ぶんぼう み つ
 日本語を学習する上で正しい発音とアクセント、正しい文法を身に付けることは

じゅうよう ばめん おう てきせつ じゅうよう じゅじゅ
 重要であるが、場面に応じて適切なことばづかいができることも重要である。「授受

ひょうげん まな じょうげかんけい
 表現」で学んだように、「さしあげる」「くださる」「いただく」には上下関係や

おんけい きも ふく はな て き て わだい じんぶつ
 恩恵の気持ちなどが含まれている。このように、話し手が聞き手あるいは話題の人物と

にんげんかんけい さんけい しんあい ぶべつ きも もち げんごひょうげん たいぐう
 の人間関係によって、尊敬・親愛・侮蔑などの気持ちをこめて用いる言語表現を待遇

ひょうげん
表現 (attitudinal expressions for expressing respect, contempt etc. for the listener or the

person being discussed) と言う (待遇とは「扱い」「もてなし」の意味)。敬語

うえむ たいぐう あらわ ひょうげん
 (honorifics, linguistic politeness) は上向きの待遇を表す表現である。

2. 敬語 (上向きの待遇表現)

敬語は伝統的に尊敬語、謙讓語、丁寧語の3つに分類されてきた。尊敬語 (exalted form) は話し手 (書き手) が対象となる人を直接高めて使う敬語である。謙讓語

(humble form) は話し手が自分を低める (へりくだる) ことによって対象を高めて使う敬語である。一方、丁寧語 (polite form) は話し手が聞き手に対して敬意を表したり、ことばづかいを丁寧にしたりする時に使う敬語である。

この敬語の3分類は2007年、文化審議会答申「敬語の指針」によって5分類に細分化された (表1)。

表1 敬語の分類 (「敬語の指針」p.13 を一部改変)

従来 <small>じゅうらい</small> の3分類 <small>ぶんるい</small>	新た <small>あた</small> な5分類 <small>ぶんるい</small>	
尊敬語 <small>そんけいご</small>	尊敬語 <small>そんけいご</small>	「いらっしゃる・おっしゃる」型 <small>がた</small>
謙讓語 <small>けんじょうご</small>	謙讓語 I <small>けんじょうご</small>	「伺う・申し上げる」型 <small>がた</small>
	謙讓語 II (丁寧語) <small>けんじょうご ていねいご</small>	「参る・申す」型 <small>がた</small>
丁寧語 <small>ていねいご</small>	丁寧語 <small>ていねいご</small>	「です・ます」型 <small>がた</small>
	美化語 <small>びかご</small>	「お酒・お料理」型 <small>がた</small>

以下では、これらの敬語がどんなものか見ていくことにする。

2.1 尊敬語（「いらっしゃる・おっしゃる」型）

相手側または第三者の行為・ものごと・状態などについて、その人物を立てて述べる表現（この「立てる」は、ことばの上で人物を高く位置付けて述べるという意味）。

<尊敬語の例>

[行為等（動詞，及び動作性の名詞）]

(1) いらっしゃる（←行く・来る・いる），おっしゃる（←言う），なさる（←する），召し上がる（←食べる・飲む），ご覧になる（←見る），お休みになる（←寝る）

(2) お使いになる（←使う），ご利用になる（←利用する）

(3) 読まれる（←読む），始められる（←始める）

(4) お導き，ご出席，（立てるべき人物からの）ご説明

[ものごと等 (名詞)]

(5) お名前, ご住所, (立てるべき人物からの) お手紙

[状態等 (形容詞など)]

(6) お忙しい, ご立派

(7) 先生は来週海外へいらっしゃるんですね。

の ばあい い か つか せんせい た の
と述べる場合, 「行く」の代わりに「いらっしゃる」を使うことで「先生」を立てる述べ方になる。このように, 「いらっしゃる」は<行為者>に対する敬語として働く。

どうし せんけいご かたち い とくてい ごけい とく
動詞の尊敬語の形については, 「行く→いらっしゃる」のように特定の語形 (特定形) を使う場合と, 「お(ご)……になる」 「……(ら)れる」のように広くいろいろな

ご てきよう いっぱんてき ごけい いっぱんけい つか ばあい
語に適用できる一般的な語形 (一般形) を使う場合がある。

2.2 謙讓語 I (「伺 う・申し上げる」型)

じぶんがわ こうい む さき じんぶつ た の ひょうげん
 自分側の行為・ものごとなどについて、その向かう先の人物を立てて述べる表現。

<謙讓語 I の例>

(8) 伺 う (←訪ねる・尋ねる・聞く) , 申し上げる (←言う) , お目にかかる (←会う) , さしあげる (←あげる) , いただく (←もらう) , 拝見する (←見る)

(9) お届けする (←届ける) , ご案内する (←案内する)

(10) (立てるべき人物への) お手紙, ご説明

(11) 先生のところに伺いたいんですが……。

のように、「行く (訪ねる)」の代わりに「伺 う」を使うことで「先生」を立てる述べ方になる。このように、「伺 う」は向かう先に対する敬語として働く。

このように、「伺 う」は向かう先に対する敬語として働く。

動詞の謙讓語の形については、「訪ねる→伺 う」のように特定の語形 (特定形)

を使う場合と「お(ご).....する」のように広くいろいろな語に適用できる一般的な語形

(一般形) を使う場合がある。

2.3 謙讓語Ⅱ (丁重語) (「参る・申す」型)

じぶんがわ こうい ていちょうご まい もう がた
 自分側の行為・ものごとなどを改まって述べることによって丁重さを表す表現。

＜謙讓語Ⅱの例＞

まい い く もう い
 (12) 参る (←行く・来る), 申す (←言う), いたす (←する), おる (←いる)

ぐけん しょうしゃ せつちよ へいしゃ ぐ しょう せつ へい つ
 (13) 愚見, 小社, 拙著, 弊社 (※「愚」「小」「拙」「弊」などを付けることで
 じぶんがわ ひく
 自分側のものごとを低める)

あす かいがい まい
 (14) 明日から海外へ参ります。

い か まい つか じぶん こうい はなし ぶんしょう あいて
 のように, 「行く」の代わりに「参る」を使うことで自分の行為を話や文章の相手に
 たい ారата の かた の ていちょう
 対して改まった述べ方で述べることになり, これが丁重さをもたらすことになる。こ

まい あいて たい けいご したら
 のように, 「参る」は＜相手＞に対する敬語として働く。

2.4 丁寧語（「です・ます」型）

聞き手や読み手に対して丁寧^{ていねい}に述べ、敬意^{けい}を表す表現形式^{ひょうげんけいしき}。

(15) タージマハルは世界遺産^{せかいいさん}だ。

(16) タージマハルは世界遺産^{せかいいさん}です。

おな ないよう あらわ ぶんまつ つ はなし ぶんしょう あいて たい
 は同じ内容^{おなじ}を表しているが、文末^{ぶんまつ}に「です」を付けると、話^{はなし}や文章^{ぶんしょう}の相手^{あいて}に対して
 ていねい ひょうげん
 丁寧^{ていねい}な表現^{ひょうげん}になる。また、

まいにち おお ひと おとず
 (17) 毎日^{まいにち}、多く^{おお}の人がタージマハルを訪^{おとず}れる。

まいにち おお ひと おとず
 (18) 毎日^{まいにち}、多く^{おお}の人がタージマハルを訪^{おとず}れます。

つ ていねい ひょうげん めいし けいようし
 でも「ます」を付けると丁寧^{ていねい}な表現^{ひょうげん}になる。「です（・でした）」は名詞^{めいし}、ナ形容詞^{けいようし}、
 けいようし じょし つ どうし つ
 イ形容詞^{けいようし}、助詞^{じょし}などに付き、「ます（・ません・ました・ませんでした）」は動詞^{どうし}に付
 く。

<「です・ます」の例^{れい}>

ご しんぶん
 (19) これはタミル語^ごの新聞^{しんぶん}です。

ねんまえ わたし しょうがくせい
 (20) 10年前^{ねんまえ}、私^{わたし}は小学生^{しょうがくせい}でした。

しゅう あま ゆうめい
 (21) グジャラート州^{しゅう}のカレー^{あま}は甘^{あま}くて有名^{ゆうめい}です。

(22) 子どものころ、野菜が嫌いでした。

(23) 昨日見た映画はおもしろかったです。

(24) その教科書は私のです。

(25) 日本では、お酒とたばこは二十歳からです。

(26) 来年、日本に留学します。

(27) 昨日は学校へ行きませんでした。

「(で)ございます」はさらに丁寧な表現で、客を相手にする場面でよく使われる。

「名詞/ナ形容詞+です」は「名詞/ナ形容詞+でございます」になり、「名詞+が
あります」は「名詞+がございます」になる。

<「(で)ございます」の例>

(28) (レストランで店員が客に) 「お茶でございます」

(29) (店のアナウンス) 「まもなく閉店時間でございます」

(30) (店員が客を褒めて) 「お客様、本当におきれいでございます」

<「(が) ございます」の例>

(31) 客：「すみません。ランチはありますか」

店員：「はい、750円のと1000円のデラックスがございます」

2.5 美化語（「お酒・お料理」型）

ものごとを美化して述べる表現形式。

<美化語の例>

(32) お酒，お料理，ご祝儀

美化語（mannerly word）は名詞に「お」「ご（御）」を付けたものである。

(33) お酒は百薬の長（どんな薬よりも効果がある）と言われている。

などと述べる場合の「お酒」は、上に挙げた尊敬語，謙讓語 I・II，丁寧語とは異なり，

<行為者><向かう先><相手>を立てるものではない。「酒」という言い方に比べて，

ものごとを美化して述べている。

「お」と「ご」の使い分けは、「お+和語」「ご+漢語」が原則であるが、美化語
 ばあい
 の場合は、

(34) お料理, お化粧

など、漢語の前でも「お」が好まれる。また、美化語以外にも、

(35) お加減, お元気 (いずれも尊敬語の例)

など変則的な場合もあるので、注意が必要である。基本的に外来語には「お」「ご」は
 つかない (×おジュース, ×おコーヒー。例外: ○おトイレ)。

2.6 二重敬語

一つの語について、同じ種類の敬語を二重に使ったものを「二重敬語」という。例
 えば、

(36) ×お読みになられる

は「読む→お読みになる」と尊敬語にした上で、更に尊敬語の「……れる」を加えてい
 るので二重敬語である。二重敬語は一般に適切ではないとされている。

ただし、二つ (以上) の語をそれぞれ敬語にして、「て」でつなげたものは「二重
 敬語」ではない。例えば、

(37) お読みよになっいていららっしゃる

は「読よんでいる」の「読よむ」を「お読よみになる」に、「いる」を「いららっしゃる」にしてつなげたものである。つまり、「読よむ」「いる」という二つの語ふたごをそれぞれ別々べつべつに敬語けいご（この場合は尊敬語ぼあい さんけいご）にしてつなげたものは「二重敬語にじゅうけいご」にはならない。

きょよう れい
 <許容きょようされる例>

(38) お読みよになっいていららっしゃる

上じょうじゆつ述。「読よんでいる」の「読よむ」「いる」をそれぞれ別々べつべつに尊敬語さんけいごにしたもの。

(39) お読みよになっいてくださる

「読よんでくれる」の「読よむ」「くれる」をそれぞれ別々べつべつに尊敬語さんけいごにしたもの。

(40) お読みよになっいていただく

「読よんでもらう」の「読よむ」を尊敬語さんけいごに、「もらう」を謙讓語けんじょうごⅠにしたもの。

(41) ご案内あんないしてさしあげる

「案内あんないしてあげる」の「案内あんないする」「あげる」をそれぞれ別々べつべつに謙讓語けんじょうごⅠにしたもの。

3. 「ウチ」と「ソト」

日本語の敬語を考^へる上^で、「ウチ」と「ソト」の概念は欠かせないものである。

「ウチ」とは自分と自分側の人物（例：家族）のことであり、「ソト」とはそれ以外の

人物である。尊敬語や謙讓語 I は、自分側を立てず、相手側を立てて述べるのが典型的

な使い方である。

(42) × お父さんは来週、大阪へいらっしゃいます。

(43) ○ 父は来週、大阪へ行きます。（または「参ります」）

(44) × お母さんは先生にお会いになりたいとおっしゃっていました。

(45) ○ 母は先生にお目にかかりたいと申しておりました。

また、会社では、

(46) 会議で社長がこのようにおっしゃった。

(47) 部長、昨日のニュースをご覧になりましたか。

のように上司に対して尊敬語を使うが、社外の人（ソト）に話す時は社内の人（ウチ）

に尊敬語は使わない。

(48) × 中山部長は今いらっしやいません。

(49) ○ 中山は今おりません。

このように、日本語では話し手と聞き手、話題となる人物との関係で敬意の高低が
 決まる。このような敬語を相対敬語 (relative honorifics) と言う。一方、ある人物に対
 して、常に一定の表現を用いる敬語を絶対敬語 (absolute honorifics) と言う (例：
 韓国語、ジャワ語、チベット語)。

4. 卑罵語 (下向きの待遇表現)

話し手が相手や第三者を見下し、蔑んだり罵ったりする卑罵語 (軽卑語,
 pejorative) は下向きの待遇を表す表現である。

<卑罵語の例>

(50) あんな奴, もう顔も見たくない。

(51) あの野郎, 今度会ったらただじゃおかない。

(52) こいつ/あいつ, 何度言ったらわかるんだ。

(53) この泥棒猫め！
どろぼうねこ

(54) 今ごろ来やがった。(動詞の連用形 (マス形) + 「やがる」)
き どうし れんようけい けい

(55) 何を抜かすか。(「言う」の卑罵語)
なに ぬ い ひばご

(56) つべこべほざくな！(「言う」の卑罵語)
い ひばご

キーワード：

たいぐうひょうげん けいご そんなけいご けんじょうご ていねいご ぶんるい けんじょうご けんじょうご ていちょうご
 待遇表現 敬語 尊敬語 謙讓語 丁寧語 5分類 謙讓語 I 謙讓語 II (丁重語)

びかご とくていけい いっぱんけい こういしゃ むか さき あいて わご かんご にじゅうけいご
 美化語 特定形 一般形 行為者 向う先 相手 和語 漢語 二重敬語 ウチ ソト

そうたいけいご ぜったいけいご ひばご けいひご
 相対敬語 絶対敬語 卑罵語 (軽卑語)
